

雜 錄 Miscellaneous

續・滿蒙ノまたゝび (其三)

高 橋 基 生

M. TAKAHASI: Further stories of my journeys through Manchoukuo (III)

ノダハン ダラハン
 諸テ次ニ關達罕・達拉罕等此ノ地方一帯ノ産金地帶ヲ地質學的ニ一瞥シテ見ルト、基岩ハ主トシテ花崗岩、結晶片岩・及ビ片磨岩ヨリ成リ。其ノ上部ガ風化シテ含金層ノ形成源トナツテキル。ソレ故到ル處掘リサヘスレバ多カレ、少カレノ砂金ハ出ル筈デハアルガ、水流ニ洗ハレテ謂所罕ヲ成ス地帯ニ多ク水撰集積スル譯デアル。猶土壤ニ就イテ見ルト、基岩及ビ氣候ノ關係上、又更ニ是等ト相關連シテ腐植質ノ集積モ相當顯著ナルタメ、一般ニ酸性乃至弱酸性ノ反應ヲ呈シテ居ル。

諸テ達拉罕ヲ北ニ距ルコト凡ソ 15 軒ノ地點ニ一方ニ白樺ノ森ヲ背負ヒ、前ニ細流ヲ控ヘタ絶好ノキャンプ地ガアル。命令一下瞬ク暇ニ 30 人ハ優ニ寢ラレル屋根型ノ大型テントガ張ラレ、中ニ据エタ組立式ノストーヴガ赤メト燃エ始メタ。オ蔭デ途中存分ニ時雨ヲ吸收シテ來タ衣服ナドモ忽チニシテ乾イタ。又其ノ頃ニハ某々氏ガ丹精ヲ込メタ手製ノライスカークノ臭ガ深刻ニ鼻ヲ衝ク。スルト誰カラトナクツノ鍋ヲ中心ニ圓陣ガ形成サレ。物ヲモ云ハズ、只々旺盛ナル食欲ガ壓倒的ナ雰圍氣ヲ醸シ出ス。愈々今夜カラハ戰時體制ヲ布カネバナラナイ。各自夫々ノ手筈ガ極ツタ。之ハ萬一ニ備ヘ



第 17 圖 滿洲國旗ヲ押立テ、進ム、(黑河憲兵隊檢閲済)

ルタメデ、聞ケバ約ニヶ月ホド前ニ此處カラ十數軒南方デ測量隊ガ寢込ミヲ襲ハレテ犠牲者マデ出シタ騒ギガアツタ。其ノ上ニ、9 月始メトハ云ヘ、既ニ數回ノ降霜ヲ經テ居リ、夜半ハ氣溫モ急ニ低下スル。昨夜ナドハ零下 2 度半ニサヘ下ツタ。又話ニヨルト本年ノ初霜ハ既ニ 8 月 26 日ニ降リタサウデアルガ、ソレデモ昨年ニ比シテ 10 日遅レテキルト云フ。コレデ暖イガトハ驚ク他ハナイ。一體此ノ地方ハ無霜日數、年 100-110 日デアツテ大連附近ノ

約半分シカナイ。コンナ具合デストーヴノ火ハ一晚中絶ヤス譯ニハユカヌ。ソコデオロチ
 ヨン 5 名ニ命ジテ 10 時半カラ翌朝ノ 4 時半マデ 1 時間半交代デ歩哨トストーヴ番トヲ務
 メサセルコトニシタ。處ガ困ツタコトニハ オロチヨンハ時計ガ讀メナイ。ソコデ時計ノ硝
 子面ニ萬年筆デ印ヲ附シテ、夫々針ガコ、マデ來タラ交代スルヤウニ申シ渡シタ。斯ク



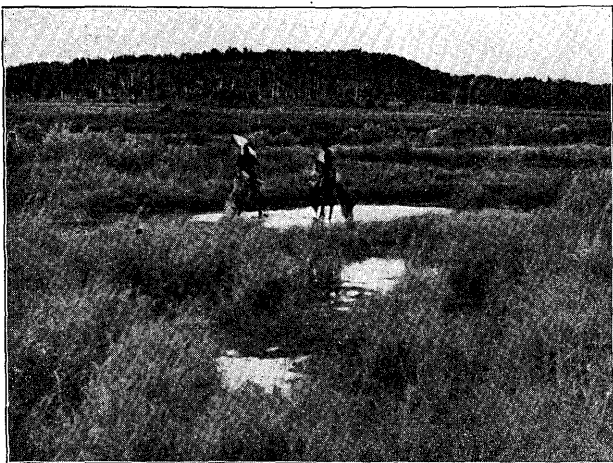
第 18 圖 白樺ノ森ヲ與ヘ（黑河憲兵隊檢閱済）

テ朔北ノ曠野ハ霜ニ明
 ケタ。寢不足ノ目ヲコ
 スリ乍ラテントノ外ニ
 出テ見ルト、昨夜先番
 ラ務メタ筈ノカーチン
 ガ相變ラズ銃ヲ持ツテ
 立ツテキル。不思議ニ
 思ツテ質シテ見ルト、
 未ダ時計ノ針ガ印マデ
 來ナイト云ツテサシ出
 シタ。成程之ハ思ハヌ
 失敗ヲシタ。丁度 11
 時半デ止ツテキル。實
 際コノ オロチヨンヲ朴

訥ト云ハウカ、忠實ト評サウカ、譯モ無ク涙ガ零レテ來ル。金山鎮ヲ出ル時既ニ オロチヨン
 1 名ハヨク 10 名ノ匪賊ニ對抗シ得ルト聞イタガ成程ト首肯ケタ。先年熱河省北部ヲ調査
 シタ際、湖水ノ對岸ヲ通過スル馬賊ノ 1 隊ヲ認メテ蒙古人ノ護衛兵ガ先ヲ爭ツテ逃ゲ支度ヲ
 シタノトハ雲泥ノ差デアル。之ハ又別ノ話ダガ、オロチヨンハ一面非常ニ數ノ觀念ニ乏シ
 イ。連レテ來タ、18 頭ノ馬ヲ毎朝點檢スルガ、常ニ一度デ済ンダ例ガナイ。オロチヨン語
 デウモン、ユル、エラン、デイン、トンガト算ヘ乍ラ途中デ怪シクナリ、數回繰返シテ漸
 ク納得スル。何故毎朝馬ヲ調ベルカト云ヘバ、カウ云フ譯ガアル。オロチヨンノ馬ハ別段
 馬糧ヲ携行スル必要ガナイ。ツマリ、一旦目的地ニ着クト、直チニ馬ノ前脚ヲ 2 本揃ヘテ
 縛ツテシマウ、ソシテ一晚中放馬ジテ置ク。馬ハ仕方ナシニ兎躍ヲシ乍ラ、翌朝マデ好キ
 ナ處デ勝手ニ草ヲ食ツタリ、寢タリスル。併シ前脚ノ自由ガキカヌノデ餘リ遠クヘハ行ケ
 ヌ譯デアル。ソレ故翌朝ハ難ナク之ヲ連レ戻スコトガ出來ル。併シ萬ガ一ニモ紛失シテハ
 ト丹念ニ點檢スル。

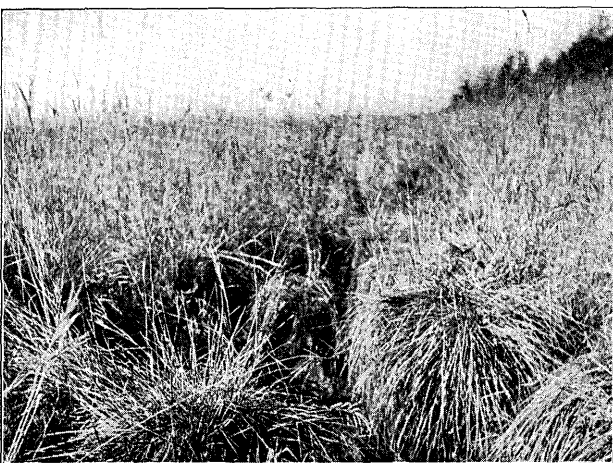
偕テ、今朝ハ霜ガ激シカツタ代リニ、日中ハ至極上天氣デアル。まんしうしうかんばノ森
 ヲ拔ケ、だふりあからまつノ林ヲ潜ツテ濕地マタ濕地ヲ進ムノデアル。時ニハ馬ノ 4 脚ガ
 全ク泥土ニ沒シテ、腹ガ地ニ着クコトサヘアル。コンナ時ニハ何ハ兎モアレ、逸早く飛ビ
 下リテタル必要ガアル。ソレ故 オロチヨン地帯ニ這入ルニハ少々不細工デモゴムノ長靴ガ
 一番便利デアル。此處デ時節柄一寸耳寄リノ話ヲシタイ。ソレハ外デモナイ。上海邊デハ
 謂所 クリークガ皇軍ノ進撃ヲ拒ンダコトハ一通リデハナカツタコトハ既ニ御存知ノ如クデ

アル。然ラバ若シモ東部シベリアノ濕地地帯ニ集團の人員ノ移動ヲ必要トスルヤウナ事態ガ發生シタトシタナラバ、ソレコソ泥沼ニ脚ヲ突キ込デ拔キ差シナラヌハメニ陥リハスマイカ。ソノ虞ハ大イニアル。ソレニハ豫メ如何ナル注意が必要デアラウカ。先ヅ飛行機ヲ飛バシテしべりりあ



かまつノ生育地帯ヲ空 第 19 圖 行軍ヲ阻ム濕地、後方ノ樹林ハまんしうしちかんば（黒河憲兵隊檢閲済）中カラ偵察シ、此處へ集團ヲ誘導スルノデアル。何故ナレバ此ノ植物ハ砂土或ハ壤質砂土ノ水ハケノ良イ土壤カ、或ハ排水ノ良イ岩石地ニシカ成育シナイカラデアル。次ニ愈々ソレデモ濕地ニ遭遇シタ場合ニハ如何ニスルカト云ヘバ、ながぼのしろわれもこう、トいはのがりやすガ絶對的の優占種デアツテ灌木ヲ交ヘヌ地域ニハ間違ツテモ馬ヲ追ヒ込マヌヤウニ暮々

モ心掛ケテ置クコトデアル。之ニ比シテ *Trorilus* ノ生育スル地域ハ大雨後 2,3 週間後ナレバ通過可能デアル。雨中デモ絶對心配ヲ要セヌノハ *Hemesocallis* ヤもうこおみなへシヲ生ズル地域デアル。コノ他滿人が烏拉草ト稱スルモノトあやめノ一種及ひろはさぎすげヲ生ズル濕地ガアル。是等ハ時ニ野地坊頭ヲ形成

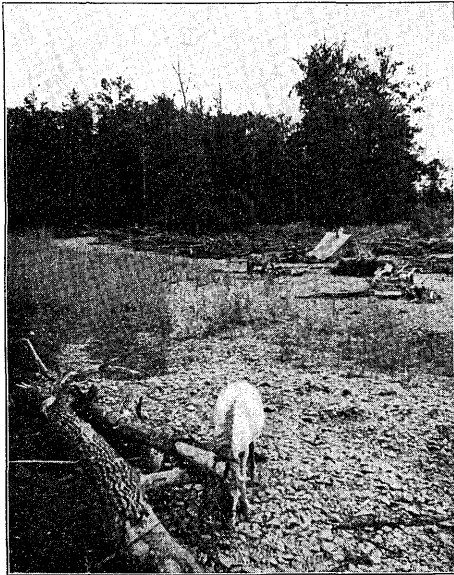


第 20 圖 野地坊主形成ノ狀況（黒河憲兵隊檢閲済）

スルタメニ、馬ガ之ニ躓ク危險ガアル。コノ内烏拉草トイフノハ大變有用ナ植物デ、細長イ葉ヲ乾燥シテ靴ノ底ニ入レテ置クト夏ニ涼シク、冬ハ暖カデアル。ソレ故オロチヨンモ滿人モ之ヲ愛用シテキル。或ル時オロチヨンガ腹痛ヲ病ンデ居ルノデ藥ヲ與ヘヨウトシタラ、
不要、不要ト手ヲ左右ニ振り乍ラ、ヤガテコノ草ノ乾シタモノヲ懷爐代リニ腹ニ卷キ込シ

デ居ツタ。ソコデ之ヲ大々的ニ藁蒲圍ニ仕上ゲヨウトイフ名案モ提唱サレテキル。

コンナ工合ニ濕地ニ阻マレテ、コノ日ノ行程ハヤウヤク 30 軒餘シカ擧ラナイ。ソシテ 4 時過^{ホマルホ}呼瑪爾河中流ノ河原ニ出テ、コノ^{ホマルホ}キヤンブ地ニ選ブコトニシタ。トイフノハコノハデ渡ラスト上流ハ一層困難ヲ伴フトノコトデアル。併シ流レニハ橋ハ勿論ノコト舟サヘモアリサウモナイ。ソレ故水深 4 米、幅 65 米ノ水流ハ到底日没前ニハ渡レル筈ガナイ。ソコデ早速一方デハ露營ノ支度ヲスルト共ニ如何ニシテ渡河ヲ決行スベキカラ協議シタ。サウシテキル内ニ頭上一面デ高ラカニ鳴キ聲ガスル。仰ゲバ百羽ヲ下ラヌ鶴ガ輪形陣ヲトリ乍ラ北



第 21 圖 呼瑪爾河中流河原ニ於ケルキャンピング
(黑河憲兵隊檢閲済)

ヲ指シテ飛ンデ行ク。見ルカラニ長イ脚ヲ後方ニ伸バシテ悠々ト飛翔スル様ハ百鳥ニ冠タル雄姿デアル。瑞兆ヲ壽グ内ニ衆議一決、最後ノ手段ヲ組ンデ渡ルコトニ肚ヲ極メタ。處ガコノ作業半バニアル時、何ヲ思ツタノカ隊長モンビライハ矢庭ニ鞍ヲ外シテ唯一騎、ヤオラ水中ニ乗り入レタ。一同啞然トシテ固唾ヲ吞ム内ニ更ニ水當ノ本流ヘト進ンダ。吾々ガ曾ツテ習ツタ水馬泳法トハ違ツテ、オロチョンノハ乗ツタマ、デ泳ガセルノデアアル。コレデハ乗手ハ樂ダラウガ、馬ノ方デハ二人分泳ガネバナラナイ。流石頑健ヲ誇ルオロチョン馬モ喘ギニ喘イデー時ハハラハラトサセラレタ。ソレデモ遙ニ下ノ方デ漸ク對岸ニタドリ着イタ。隊長ハ更ニ何カ探シ求メテキルラシイ。ソコデ吾々モ筏流シノ渡河準備一ト一時中止

シテ之ヲ見守ル事ニシタ。軀デ支流ノ奥ノ方カラ筏ト五十歩百歩ノ前後ノ區別モナイ板ヲ打チツケタ箱ノヤウナモノヲ見附ケテ來タ。何デモ前ニ此ノ邊ヘ來タ測量隊ノ手製デアアラシイ。ソコデ之ニ修理ヲ加ヘ筏ニ代ヘル事ニシタ。明日ノ準備ハ之デ出來タ。今夜ハ焚火ノ大盤振舞ダ、流木ノ多イ河原ヲコレ幸ヒト、ニケ所ニ堆ク積ミ上ゲテ火ヲ點ジタ。燃エル燃エル炎々トシテ燃エル。文明ノ燈火カラ遠ク離レタ無人ノ曠野ニ今開拓ノ烽火ガ舉ガツテキル。闇ヨ破レヨ、妖魔ヨヒレ伏セヨ。コノ火ヲ圍ンデ若キ先驅者達ハ目指ス^{ヘイロンコウ}黑龍溝入リノ密計ヲ練ツタ。黑龍溝トハ呼瑪爾河上流一滯ヲ指スノデアツテ、滿人ハ一^{ヘイロンコウ}名幽靈谷ト稱シテ怖レテキル。ソレハ 20 數年ノ昔、民國何年カノ頃、支那側ノ調査隊 30 餘名ガ此ノ奥地ニ這入ツタガ、コトゴトク行先不明トナリ唯 1 名僅カニ金山鎮ニ辿リ着イタサウデアル。以來此ノ地方ノ滿人達ハ黑龍溝ハ名ヲ聞イタダケデ身慄ヒスル。彼等ニ言ハセルト妖怪ノ棲息處デアルサウデアル。何デモ^{ヘイロンコウ}テントノ中デ寐デ居ルト知ラヌ内ニ外ヘ曳キ出

サレテキルトカ。或ハ曾ツテ惡事ヲ働イタ人間ハ腸ヲ抉り取ラレテ高イ木の梢ニ晒シ物ニナルトカ、又ハ毒草ガ一面ニ繁ツテ居ツテ之ニ觸レルト死ヌトカ。或ハ黑龍溝ニハ底マデ澄シダ溜リ水ガアルガ、其處ハ妖怪ノ水浴スル處デ其ノ水ヲ飲シダガ最後、狂ヒ死ヲスルトカ。コンナ話ヲ無智ナ苦力達ハ1カラ10マデ信ジテキルカラタマラナイ。



第22圖 呼瑪爾河中流渡河ノ狀況、河中ノ黑點ハ馬（黑河憲兵隊檢閱濟）

イ。ソレ故彼等ニハ行先ヲ明サナイデ連レテ來タノdeal。

前後2日ガ、リノ呼瑪爾河中流ノ渡河作業モ無事ニ濟シデ路ハ愈々狹ク、時ニハ消エ去ルコトサヘアル。最早コノ邊ハオロチヨン以外ニ通ルモノトモナイ。馬上ソツト延ビ上ツテ見ルト鴨ガ5,6羽下リテキル。今年18歳ニナルオロチヨンノ少年ピンボーガ邊岸マデ忍ビ寄ツタカト思フト追ヒ撃チノ1發デ見事ニ止止メテ來タ。見レバ首ノ附ケ根ヲヤラレテ、今ニモ挽ギ取レサウデア

ル。紛レ中リカト思ヘバ、コノガ鴨ノ狙ヒドコロダサウデア。何シロ彼等ノ所持スル銃ハ銃口ニ人差指ガ這入ル位モアル戰鬪用ノモノデ、眞面ニ胴中ナドラ打タレタノデハ肉ガ四散シテ、ソレコソ何モカモ無クシテシマウ。カウナルト、鴨打モ鹿ヲ止止メル以上ニ修練ヲ要スル。一體何處製ノ銃カト手ニ執ツテ見ルト、1891年エルフルトト彫ツテアル。猶彼等ノ使用ス



第23圖 呼瑪爾河支流ノ渡河河時ノ樹木ハエゾやなぎ（黑河憲兵隊檢閱濟）

ル彈丸ハ皆手製ノダムダム彈デ、其材料ト火藥トハ縣公署デ管理配給スルコトニナツテキル。コノ制度ガ彼等ノ宣撫工作上最モ緊密ナ役割ヲ務メテキル。猶又彼ラハ照準ノ狂ツタ

銃ヲ丹念ニ割ツタリ、鹿ノ角ナドヲ用ヒテ各自補正シテ居ル。實ニ銃ヲ持ツテ生レテ來^クヤウナ民族デアル。愈々オロチヨンノ居住地帯モ深く這入ツタノデ、一日呼瑪爾河上流固^{チユク}其固附近ニテントヲ張ツタ折、約 1 軒程離レタ次ノ丘ノ上ニオロチヨンノテント村ヲ訪ネタ。村ト云ツタモ實ハ三軒デ、シカモ最近移動シテ來タバカリデアル。見ルト其ノ小屋掛法ガ誠ニ面白イ。先ヅ 2 米餘ノ手頃ナ白樺ヲ 10 數本切り倒シ、其ノ先端ヨリ少シ下デ束ネ。

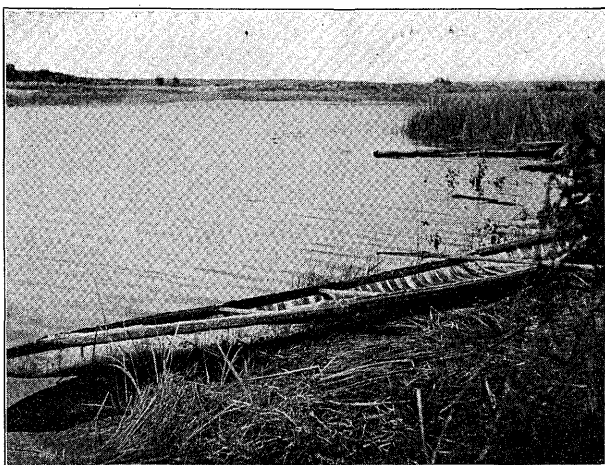


第 24 圖 オロチヨン族ノ一家（黒河憲兵隊檢閲演）

之ヲ傘形ニ擴ゲテ地上ニ押シ建テ、ソノ外側ヲ白樺ノ皮ヤ白布ヲ用ヒテ簡單ニ覆フノデアル。尤モ冬期ニハ其ノ上ニ更ニノロヤハンダハンナドノ毛皮ヲ載セルサウデアル。ソシテイザ移動スルトナレバ、白樺ノ骨組ハソノ儘ニ放置シテ行ク。ソレ故奥地旅行中處々ニソノ殘骸ヲ認メタノデアル。

猪テ例ニヨツテ跛行式ノ挨拶デ敬意ヲ表シ、テント内ヲ視カセテ貰フコトニシタ。内ニハ別ニ床ガアル譯デモナク。タマ程良イ加減ニノロノ毛皮ヲハギ合セテ敷イテアルニ過ギナイ。家財道具ナドモ至ツテ簡單デ、少シバカリノ白樺ノ皮デ出來タ食器ト毛皮製ノ衣類ガ數點アルダケデアル。ソレ故イザトナレバ何時デモ外ニ繫イデアル 4 頭ノ馬デ家族グルミ移動シテ行クコトガ出來ル。併シ彼等ト雖モ、之ガ全財産デハナイノデアツテ、日常使用セヌモノハ、山ノ洞窩ナドニ極秘裡ニ隠シテ置クノダサウデアル。テントノ裏手ニ廻ツテ見ルト彼第ガハンダハント呼ンデ居ル動物ノ皮ガ張ヲ取リナガラ乾シテアル。ソノ大サハ縦 2 米、横 1 米餘ノ長方形ニ切ツテアツタ。話ニヨルト、牛程モアツテ、幾重ニモ分レタ角ガアリ、至ツテ嗅覺ノ鋭イ敏捷ナ野生動物ダサウデ、之ヲ止シメルコトハ大變困難ダサウデアル。實物ヲ見ナイノデ何トモ云ヘナイガ、馴鹿ニ近イ大型ノ鹿ノ類デアルラシイ。猶彼等ニ獎メラレルマ、ニ、此ノハンダハンノ乾肉ヲ味ツテ見タガ煮テモ良イ、其ノマ、デモ可成リ美味デアル。此ノ他獸類デハノロト稱スル小型ノ鹿ノ類ガ多ク、朝夕、近クノ森デ、恰モ小兒ガ涙ヲ含ンデ遠方カラ母親ヲ呼び求メルヤウナ鳴キ聲ヲ耳ニシタ。又猛獸トシテハ虎ハ殆ンド居ラヌサウデアルガ、熊ハマダマダ可成リ居ラシイ、ソコデ熊狩ノ話デアルガ、流石ノ彼等モ 1 人デハ危険ナノデ、少クトモ屈強ノ若者 2 名ガ協力スルサウデアル。何シロ大陸ノ熊ハ身長 2 米餘モアルノデ 1 人ガ銃ヲ執リ、人ガ刀ヲ振ツテ組ミツク

トノコトデアル。1 度
 嚴冬ノ頃ニ來テ此ノ奮
 戰振リヲ見タイモノ
 デアル。併シコノ命賭
 ケノ毛皮ガ僅々 15 圓
 カラ 20 圓前後デ彼等
 ノ手モトカラ離レテ行
 クト云フ話デアル。猶
 以上ノ他ニモ鹿、栗
 鼠、貂、獺、白狐ナド
 ガ獲レルサウデアル。
 兎ニ角スクシテ狩獵シ
 タ毛皮ハ滿人ニ賣捌カ
 レ、ソレニヨツテ小麦
 粉、鹽、大豆、豆油、ソノ他日用品ガ購入サレルノデアル。



第 25 圖 オロチヨン族ノ使用スル白樺皮製ノ輕舟（黒河憲兵隊檢閲済）

呼瑪爾河上流地方ハ前述ノ如ク非常ニ濕地ガ多く、又小流ヤ池沼モ數知レズ散在シテキ
 ルノデ、オロチヨンハ白樺ノ皮ヲ剥イデ巧ニ之ヲ組合セ輕イ小舟ヲ作ツテ使用シテキル。

コレナドハ上高地ノ大正池
 ヘデモ、1, 2 艘浮ベタイヤ
 ウナ氣ガスル。又オロチヨ
 ン語ノ内、面白サウナノヲ
 2, 3 拾ツテ見ルト娘サンガ
 イロイロデ、細君ヲアタリ
 カント呼び、馬ガモリデ、靴
 ガオンタデアル。持ツテ來
 イヲアモコリト言ヒ、持ツ
 テ行ケヲアナリト言フ。
 又植物ノ名デハまんしうか
 んバヲタロート言ヒ、だふ
 りからまつヲイラニタと呼
 ビ、しべりやあかまつヲ



第 26 圖 オロチヨン族ノ草細工（黒河憲兵隊檢閲済）

ジャツタト言フ。兎ニ角吾々ハ之等ヲ組合セテサマジイ會話ヲ取り交スノデアル。尤モ
 滿語サヘ話セレバ大體ノ場合オロチヨンノ男子トハドウヤラ話ガ通ズルヤウデアル。以上
 ノ他ストーヴヲベチト呼ブ處カラ見レバ露語ノベチカカラ來テ居ルコトハ明カデ、之カ
 ラ見ルト露語モ可成リ混ツテ居ルラシイ。ソレハ其ノ管デ元來コノオロチヨンハ民族學的
 ニハツングース族ノ一派ト認メラレテ居リ、北樺太カラ、沿海州ヲ經テシベリアヲ横切り、

遙エニセイ河畔ニ迄點々ト分布シテ居ル。ソシテ其ノ一部ガ偶々南下シテ滿洲國內ニ這入ツタノガ吾々ノ見聞シタモノデアル。併シ乍ラ斯クシテ一旦滿洲國領内ニ移住シタ現在デハ、彼ラモ亦四民協和ノ精神ノ下ニ立派ニ滿洲國人デアツテコノ點黑龍江ノ對岸、蘇聯側ノ兄弟トハ全ク異ツタ環境ノ下ニ置カレテキル。

甞ニソレバカリデハナク、彼等狩獵民族ハ滿洲國々防線ノ一環トシテモ立派ナ働キサヘ務メテキル。又吾々日本人トハ容貌モ酷似シテヲリ、キチント膝ヲ折ツテ坐ル點ナド如何ニモ親シミ易イ。猶人ニヨツテハ我國ノ神話ニ出テ來ル「八俣ノ大蛇」ハオロチヨシト訛ツタノダト云フ説サヘモ出シテキル。尤モ吾々トシテハコソナ説ハ「成吉思汗ハ義經ナリ」トイフ程度ニシカ信ゼラレナイガ、兎ニ角日本人ニ近イ民族デアルコトダケハ間違ヒナイ。

以上デオロチヨシ地帯ノ話モ大體済シタノデアルガ、猶2,3氣付イタ點ヲオ話シテ見ルコトニスル。先ヅ第1ハ「黑龍江ノ水ハ何故黒色デアルカ」デアルガ、前ニモ述ベタヤウニ黑龍江ヲ丘ノ上カラデモ見下サウモノナラ、文字通り黑龍ニ見立テルコトガ出來ル。之ハ黃河ノ水ノ黄色ナノト誠ニ面白イ對照デアル。トコロデ斯克黑ズンダ譯ハト云ヘバ、此ノ河ハ其ノ上流ニ於テハ、內蒙古ノ流ヲ汲ムコロンバイル地方ノアルカリ性土壤地帯ヲ貫流シテキルタメ、河水ハ其ノ當然ノ結果トシテアルカリ族、及ビアルカリ土族イオンヲ多量ニ含有シテキル譯デ河水ノ黒クナル筈ハナク、實際モ其ノ通りデアル。然ルニ一度其ノ中流上部ニ到レバ其ノ支流ノ殆ンド凡テガ東部シベリアの濕地ノ剩水ヲ集メテ來ルタメニ、Humusノコロイドヲ豊富ニ注ギ込ムコトニナル。ソコデコノコロイドノ表面ニ嚮ニ述ベタイオンガ吸着サレル。ツマリ安定ナ形トナツテ、一種ノサスペンションヲ形成スル。要



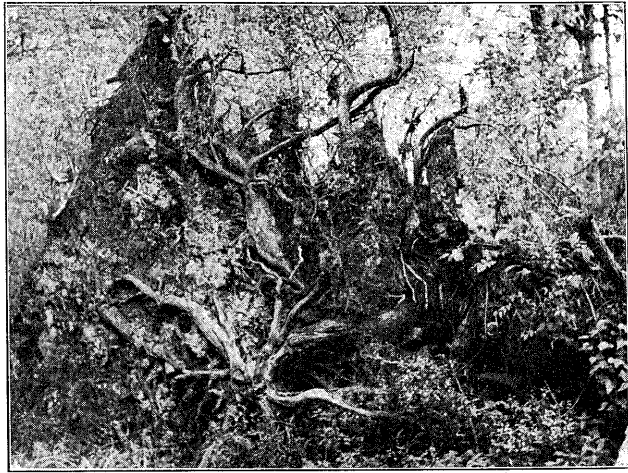
第 27 圖 蛇行線ヲ描ク小川ヲ含ム濕地 (黑河憲兵隊檢閲済)

中ニアルノトデハ大イニ趣ヲ異ニスルコトニナル。其ノ譯ハ前者ハ酸素ノ含有量乏シク、根系ヲ呼吸ヲ困難ナラシメルニ反シテ後者ハ殆ンド其ノ處ガナイカラデアル。ソコデ一面

スルニ黒イ微粒子ガ水中ヲ浮遊スルタメニ河水ハ黒色ヲ呈スルト考ヘレバヨイ。次ニコノ地方ニアル多數ノ支流ハ悉ク顯著ナ蛇行線ヲ描キ乍ラ濕地ノ中ヲ縫ツテ行ク。處ガ面白イコトニハ濕地中デモコノ河流ニ沿ツテノミ樹木ガ生エテキル。ツマリ生態學的ニ考ヘルト濕地ノ中ノ停滯水中ニ樹木ノ根系ガアル場合ト、河流沿ヒノ流動水

ノ濕地ノ中デモえぞやなぎ、ほそばきぬやなぎガ衝立テノ如クニ生ニ列ンデキル處ハ河デアルト思ヘバヨイ。猶以上 2 種ノ外ニテうせんおのへやなぎ、テうせんみねやなぎ、テうせんきつねやなぎ、ぬまきぬやなぎ、あかめばつこやなぎ、まるばつこやなぎ等、*Salix* 屬ガ特ニ多イコトハ同地域ノ環境ヲ暗示シテキルト云ヘル。更ニ又同地方ノ旅行ニ於テ倒木ガ特ニ多イコトヲ注目シタガ、土壤ガ比較的淺イコト、水濕地ガ多イコトノ外ニ、地下 1 米乃至 2 米下ハ盛夏ノ頃ト雖モ結氷シテ永久凍土層ヲナシテキルトメニ根系ガ淺ク、然モ張りガ充分デナイコトニ基因スルト思ハレル。

最後ニ前後 3 週間ニ互ツタ同方面ノ調査旅行中如何ナル樹木ガ一番多量デアツタカト云ヘバ、先ヅまんしうしらかんばヲ推サネバナラナイ。次ハだふりあからまつデ、量ニ於テハ前二者ニ較ブ可クモナイガ第 3 位ハしべりああかまつ及ビ其ノ變種ガ占メルモノト思フ。其ノ他柳以外ノ闊葉喬木デハ



第 28 圖 倒木ノ淺イ根系（黑河憲兵隊検閲済）

えやがはかんば、こおのおれ、もんどりなら、テうせんやまならし、及ビ *Populus sieboldii* 等デ、大型灌木トシテハ、まんしうはんのき、しべりあはんのき等ヲ見、小灌木トシテハやまはぎ、ほそばいそつじ、おへうはしばみ、えぞのむらさきつじ、えぞほざきなムかまど、ほざきしもつけ、くろまめのき、やまはまなし、しらたまみづき、あかさんざ、うらじろえぞのうはみづぐら等デアラウ。是等ノ生育状態ニ就イテハ又他日ヲ期スルコトニシテ、一先ヅ沿黑龍地方ノ調査旅行談ヲ打チ切ルコトニスル。